



⑧



⑨



⑩



⑥



⑦



③



⑤



④



①



②

福島県郡山市
クラブスチアリーダーズ

みんなの輝くパワーで

地域で頑張る人にエールを。

笑顔と元気を届けたい!

17年前、地域で頑張っている人を応援したいと誕生した、我が町応援団「クラブスチアリーダーズ」。その後、郡山市でジュニアチームを立ち上げ、現在は福島県と宮城県の14チーム、総勢約400人が地域に元気と笑顔を届ける活動を行っています。



仮設住宅訪問。手ぬぐい体操でリラックス。



自分が笑顔でいれば、周りも自然に笑顔になるんです。



仮設住宅の窓ふきなども進んでいます。



震災復興イベントではボンボンを渡して一緒に踊ります。

んです。輝き方が明らかに変わりましたね。その後、いろいろな地域の女性たちにも活躍してほしいと2001年、郡山へ移転。翌年にはジュニアチームを立ち上げました。子どもたちの成長は目を見張るほどで、評判が評判を呼び、現在は福島県と宮城県の14の地域で活動。プロスポーツチアリーダーも輩出しています。

また、本当の意味で人を応援する心を学んでほしいと、各地域で自分たちが今できることを考え活動する「元氣届け隊」プロジェクトを結成。震災後は、高齢者施設や仮設住宅などを訪問し、心の交流を図っています。「近所に住むおじいちゃん、おばあちゃんに会いに行く感覚が続いています。核家族で育っている子もいるので、お年寄りの方と接するのが楽しいようです。この活動で相手を思いやる心も育まれていると思います。」

地域に根ざし、地域を応援する人を増やしたいと歩んできたクラブスチアリーダーズ。今後の目標は「いつになってもチアリーダーでいられる環境を整えること。実現に向けて『東北チアオールスタープロジェクト』を立ち上げました。女性はいくつになっても輝けます。そんな女性たちをもっと増やしたいですね」とパワー全開の笑顔で話してくれました。

- ①「いつでも全力。中途半端なことはしたくない」と話す石河さん。
- ②常に笑顔を保ち、全力でパフォーマンス。
- ③どうすれば見ている人に伝わるか、石河さんが動きのポイントを指導。この日は小学校低学年から22歳までのメンバーが参加。
- ④2チームに分かれてパフォーマンス対決。まずは作戦会議から。
- ⑤小さな子も集中して話を聞いています。
- ⑥「がむしゃらにやろう!」「力を込めて大きく踊ろう!」みんなでベストパフォーマンスを目指します。
- ⑦手を高く上げ、元氣いっぱいのパフォーマンス。
- ⑧最年長の星菜奈(かなな)さんは、みんなのお手本。2人の妹とともにジュニアチーム結成当時からメンバーとして活躍。
- ⑨この日一番のパフォーマンスを見せてくれた小学3年生の佐藤唯音風(りおな)ちゃん。
- ⑩練習を傍らで見守るおかあさんたちは「チアリーダーを始めてから積極的になったし、相手を思いやる気持ちや、感謝する気持ち、そして諦めずに努力するようになった」と話します。